

令和3年度 学びの丘 上新田学園 学校評価書

| 4段階評価 | | 4 とても良い 3 良い 2 少し悪い 1 悪い | | | | | | | |
|-------|------------|-----------------------------------|---|--|----------------------|------|-----|--------------|--|
| No. | 重点目標 | 評価指標 | 学校としての取組や反省 | 保護者 | 教職員 | 学 校 | 委員会 | 学校関係者評価委員の意見 | |
| 1 | 保護者・地域との連携 | 1 | 学校は、保護者や地域の声や願いに応える教育を行っている。 | ○ コロナ禍でありながらも、菜の花プロジェクトや農業体験学習等、保護者や地域の方々のご協力をいただきながら、可能な限り取り組むことができた。 | 3.40 (小) 3.49 (中) | 3.62 | 3.6 | 3.6 | ○ 常に明るいイメージで、学校全体としては良い方向だなと感じている。 ○ 登下校の様子を見てみると、あいさつや交通ルール・マナーなどよくなっていると感じる。小学部の登校班と中学部の自転車の乗り方について、今後も指導と見守りをお願いしたい。 |
| | | 2 | 学校は、各種の便りやホームページ、保護者会等の中で、学校の考え方や取組の様子について伝えている。 | ○ コロナ禍により、保護者の来校が制限される中、ホームページや学校だより「座論梅」で、学校での教育活動の様子を積極的に伝えることができた。ホームページの閲覧は、1日平均400を超えるアクセスをいただいている。 | 3.73 (小) 3.58 (中) | 3.93 | | | |
| | | 3 | 学校は参観日や行事等を通して、保護者や地域住民と交流のできる機会を適切に設けている。 | ○ 菜種落としや職場体験学習は、実施を見合わせたか、感染防止に最大限の配慮をしながら、可能な限り各種行事を実施してきた。 | 3.57 (小) 3.45 (中) | 3.47 | | | |
| | | 4 | 学校は、PTA会費や教材費など、家庭から集めたお金について適切に処理し、保護者にも説明している。 | ○ PTA会費は地区での集金とし、教材費は口座引き落としとしているが、ほぼ滞りなく納入していただいている。 | 3.59 (小) 3.65 (中) | 3.77 | | | |
| | | 5 | 教職員(担任等)は、各種の便りや懇談会等を通して、子どもの生活状況や学級の様子を伝えている。 | ○ 学級通信は、全学級で発行し、子ども達の様子を発信することができた。 | 3.67 (小) 3.59 (中) | 3.69 | | | |
| | | 6 | 教職員(担任等)は、児童生徒のよいところや気になることについて、電話や家庭訪問などで家庭との連絡を取り合っている。 | ○ 学級担任をはじめ、全職員で細部にわたって家庭と連絡を取るよう心がけた。年度当初に個人面談を実施し、保護者との連携を深めることができた。今後ともよりよい連携の在り方を模索していく。 | 3.43 (小) 3.33 (中) | 3.71 | | | |
| 2 | きめ細かな指導 | 7 | 学校は、楽しく分かりやすい授業を実施している。 | ○ 一人一台のタブレット導入に伴い、ICTを効果的に活用した授業に取り組んでいる。 | 3.56 (小) 3.33 (中) | 3.52 | 3.4 | 3.7 | ○ 一人一台タブレットを活用した授業改善への取組が効果を上げている。それに伴ってメディアリテラシーについて学習する機会も増やしていった欲しい。 ○ いつもきめ細やかなご指導をいただきありがとうございます。いろいろな課題や問題があると思うが、その内容によっては、学校だけの問題ではなく、「家庭でも解決を目指してください」ということもあっていいと思う。そのことが、教師の業務過多の軽減に少しでもつながればと思う。 ○ 今後とも読書指導の充実を図ってほしい。 |
| | | 8 | 一人一人の学力を伸ばすためのきめ細かな指導を適切に行っている。 | ○ 小学部では全学年で放課後の補充学習を週2回、中学部では各教科での個別指導を適宜行っている。 ○ 3学期は、特に、個に応じた学びの確認に力を入れ取り組んでいる。 | 3.42 (小) 3.26 (中) | 3.52 | | | |
| | | 9 | 教職員は、子どもの個性をよく把握して、適切な評価や声かけをしている。 | ○ 児童生徒に対し、傾聴を心がけ、称賛の場を多くもつとともに、タイミングよく声かけができるように取り組んでいる。 | 3.38 (小) 3.36 (中) | 3.55 | | | |
| | | 10 | 家庭と連携しながら、家庭学習の進め方について、適切に助言している。 | ○ 家庭学習の方法については、4月の個人面談、学級懇談時に説明を行い、保護者への協力をお願いし、必要に応じて個別に対応してきている。 | 3.34 (小) 3.30 (中) | 3.30 | | | |
| | | 11 | 読書活動の一環、及び課題解決の手段として、本に親しませている。 | ○ 図書支援員を中心に、読書環境の整備を行い、本に親しませる取組を積極的に行っている。入口には、新刊本の紹介、1日ごと、学部ごとの冊数を掲示し、館中も手に取りやすいレイアウトの工夫を行っている。 | 3.54 (小) 3.22 (中) | 3.04 | | | |

| No. | 重点目標 | 評価指標 | 学校としての取組や反省 | 保護者 | 教職員 | 学 校 | 委員会 | 学校関係者評価委員の意見 |
|-----|---------------|--|--|----------------------|------|-----|-----|--|
| 3 | 児童生徒に 自信 | 12 教職員は、一人一人を大切にされた学級経営・いじめのない集団づくりを行っている。 | ○ 講話や指導の場面では、常に「校訓」と「上学宣言」を意識させるようにしている。 ○ 年間を通して「人権の花」を育てる活動を行った。 | 3.33 (小) 3.44 (中) | 3.43 | 3.5 | 3.7 | ○ いじめ対応については、今後とも早期発見、早期対応はもちろん、未然防止への取組を継続して行って欲しい。 |
| | | 13 児童生徒同士が互いに認め合うコミュニケーションづくりに取り組んでいる。 | ○ 人権委員やボランティアの児童生徒を中心に毎日管理を行い、生命あるものを大切に思う心を育ててきている。また、人権集会を開き、児童生徒一人一人の人権意識の高揚を図っている。 | 3.36 (小) 3.55 (中) | 3.52 | | | |
| | | 14 子どもに自信をつけさせるために、授業や行事等で児童生徒が発表したり活躍したりする場を与えている。 | ○ 生徒指導の三機能を意識した取組を意図的にを行い、児童生徒の自己有用感を高めてきている。また、作品等を積極的に新聞・ラジオに投稿したことで、意欲的に表現活動に取り組むようになってきている。 | 3.56 (小) 3.56 (中) | 3.69 | | | |
| 4 | 小・中学部間 の連携 | 15 小・中学部間の連携を図る授業や取組を適切に行っている。 | ○ 小学部3年生から、中学部職員による一部教科担任制をとり、専門的な授業を行うことができています。 ○ 一人一授業の研究授業を行い、小中の職員の授業を互いに参観し、研修を深めている。 | 3.49 (小) 3.41 (中) | 3.59 | 3.5 | 3.8 | ○ 学校の業務が多様化・複雑化してきており、学校における「働き方改革」が急務である。教師と子どもが向き合う時間を増やすためにも、「学校がすべきこと」「家庭ですべきこと」「地域が応援できること」等、分担していく必要がある。 |
| | | 16 立腰や語先後礼のあいさつの仕方等、礼儀や姿勢を意識した学習環境づくりを適切に行っている。 | ○ 4月に「礼法指導」を行うとともに、学習図書委員会を中心にした取組により、整然とした環境で授業を開始することができています。 | 3.58 (小) 3.48 (中) | 3.48 | | | |
| | | 17 思いやりの心やルールを守る態度、協調性など、心を育てる授業や教育活動を適切に行っている。 | ○ 道徳の時間の充実を図るとともに、「校訓」と「上学宣言」を常に意識した指導を行っている。 | 3.50 (小) 3.47 (中) | 3.54 | | | |
| | | 18 安全、健康に関する授業や教育活動を適切に行っている。 | ○ 日々の感染症対策はもとより、学期1回の避難訓練や毎月の安全点検、また熱中症等、学校全体で危険予測能力と危機回避能力の育成に取り組んでいる。 | 3.59 (小) 3.52 (中) | 3.55 | | | |
| | | 19 いのちを大切にせる教育や人権教育、情報教育など、今日的な課題についての教育を適切に行っている。 | ○ 担任による性教育の授業や「か母ちゃっくらぶ」「動物愛護協会」等、命を大切にせる教育や性教育を計画的に行った。また、ICT教育についての研修も計画的に実施している。 | 3.54 (小) 3.48 (中) | 3.69 | | | |
| | | ※ 効率よく業務が遂行できるように教職員相互で連携し、勤務時間を意識した取組ができています。 | ○ 職員同士よく声をかけ合い、助け合いながら業務を行う姿が多く見られる。今後とも、個々の職員の業務の効率化を促す必要がある。 | 教職員のみ | 3.45 | | | |
| 5 | 上新田 スタンダード | 20 自他を高める学習5原則（1分前着席、大きな声で始めと終わりの挨拶、忘れ物ゼロ、授業に集中、きちんと家庭学習）について取組を行っている。 | ○ 学校だよりや学級通信、ホームページ等で学校の現状を伝えるとともに、授業への集中力を高める取組として、機会あるごとに家庭におけるゲーム時間の設定やルールづくり等の協力をお願いしてきている。 | 3.63 (小) 3.58 (中) | 3.47 | 3.6 | 3.7 | ○ メディアとの正しい付き合い方について、子ども達に継続して指導して行ってほしい。 |
| | | 21 自他を大切にせる生活3原則（温かい学校、美しい学校、元気よい学校）について取組を行っている。 | ○ 毎月の生活目標「凡事徹底」を掲げ、全校で取り組んでいる。称賛の場を多く設定したことで、進んであいさつのできる子どもたちが増えた。また、縦割り班で協力し合いながら、無言掃除がしっかりできている。 | 3.62 (小) 3.56 (中) | 3.52 | | | |
| | | 22 ふるさとを大切に思い、子どもたちの夢を育む教育に取り組んでいる。（キャリア教育） | ○ 学校行事、総合的な学習の時間、学級活動、道徳の時間をはじめとして、教育活動全体を通して、キャリア教育の充実を図り、夢を抱き、夢を語る児童生徒の育成に努めている。 | 3.54 (小) 3.48 (中) | 3.38 | | | |

次年度の方向性についての校長所見

- 1 学校・家庭・地域との良好な関係づくりを築くとともに、今後も積極的な情報発信と共通理解を図りながら「地域とともにある学校づくり」を目指す。
- 2 教科の専門性を生かした授業やきめ細かな生徒指導及び特別支援教育を推進するための支援体制を充実させることで、小中一貫教育校及び本校ならではの教育を推進する。
- 3 常に危機意識をもち、安心・安全な環境をつくとともに、自己有用感をもたせる機会を意図的・計画的につくることで、児童生徒一人一人の成長を促し、夢や可能性を追求していく。